ハトダヨ
2017年
5月号

函館市中央図書館だより

編集・発行　函館市中央図書館
指定管理者 TRC 函館グループ
TEL　35-5500　FAX　35-5525

第１３号 平成２９年５月１日 発行

予約ランキング

図書館でたくさん予約が入っている本は何か、みなさんはご存知でしょうか。
ランキングを参考に読みたい本を探すのも一つの方法です。
ご予約は図書館の窓口、またはインターネットからどうぞ。

＼平成 29 年４月１日現在，予約回数の多かった本をご案内しています／

1	蜜蜂と遠雷	恩田　陸／著
2	恋のゴンドラ	東野　圭吾／著
3	九十歳。何がめでたい	佐藤　愛子／著
4	コンビニ人間	村田　沙耶香／著
5	雪煙チェイス	東野　圭吾／著
6	三鬼	宮部　みゆき／著
7	罪の声	塩田　武士著
8	氷の轍	桜木　紫乃／著
9	騎士団長殺し　第１部	村上　春樹／著
10	騎士団長殺し　第２部	村上　春樹／著
11	危険なビーナス	東野　圭吾／著
12	i	西　加奈子／著
13	夜行	森見　登美彦／著
14	みかづき	森　絵都／著
15	沈黙法廷	佐々木　譲／著
16	コーヒーが冷めないうちに	川口　俊和／著
17	火花	又吉　直樹／著
18	ハリー・ポッターと呪いの子	J.K.ローリング／著
19	声なき蟬　上	佐伯　泰英／著
20	声なき蟬　下	佐伯　泰英／著

イベント告知

ヨムちゃんをさがせ！

日　時：平成 29 年５月５日（金）祝日
　　10 時～16時　こどもの日
場　所：函館市中央図書館児童コーナー
定　員：子ども50 人（先着順）
対　象：小学生　　参加費：無料

児童コーナーにかくれているヨムちゃんを１０個見つけよう！全部見つけたら記念品をさしあげます。申込み不要、ぜひご参加を！！

お問い合わせ先　中央図書館　☎３５－５５００

第１回　郷土の歴史講座
「函館オーシャンを追って」～戦後の最強時代編～

日　時：平成 29 年５月２０日（土）
　　14時～15時 30 分（開場 13 時半）
場　所：函館市中央図書館視聴覚ホール
定　員：150 名（申込み不要・当日受付）

創立 110 周年を迎えた日本最古の社会人野球チーム「函館太洋倶楽部」について日本経済新聞社編集局の小林肇氏にお話しいただきます。

ハトダヨにしか
載っていない！

ぜひ読んでみてください！

スタッフのおすすめ本

棚：A10～12
請求記号：367.3 ﾅｶ

タイトル：**「お父さんがキモい理由を説明するね」**

著者：中山　順司　出版社：泰文堂（2014 年 5 月）

なかなか衝撃的なタイトルですが、内容は中学生の娘と距離が出来たように感じる四十路お父さんが、会話をすることで歩み寄ろうと奮闘するノンフィクションです。朝 6 時の珈琲屋で繰り広げられる娘との真剣勝負は笑いあり、涙あり。もちろん、タイトルの件についても真面目に議論をしています。「正しい彼氏の作り方」から「生きる意味」まで、親子が同じ土俵に立って真剣に存分に語り合う姿は、とても読みごたえがありました。中学生の時に父親とこんな会話ができたら面白かっただろうなと思わずにいられません。

棚：A13～A15
請求記号：410.4 ﾕｳ

タイトル：**「数学ガール」**

著者：結城　浩／監修　出版社：ソフトバンククリエイティブ（2007 年 6 月）

数学好きの高校生「僕」が、賢い同級生「ミルカ」・数学が苦手な後輩「テトラ」と、数学について語り合う、数学を題材にした心ときめく青春小説です。

扱っている数学は本格的で一見とっつきにくいですが、説明がわかりやすいので、数学が苦手でも大丈夫です。数式の意味がよくわからないときはながめるだけにして、まずは物語だけ読んでみてください。数学が好きな人もそうでない人も楽しめる内容になっていると思います。

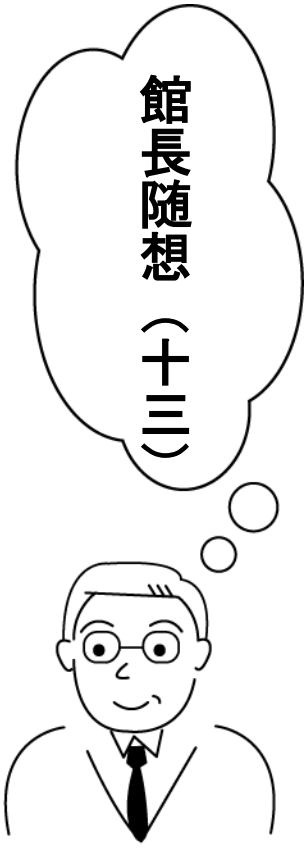
棚：A1～A3
請求記号：BF ﾀｻ

タイトル：**「30 代作家が選ぶ太宰治」**

著者：太宰　治／著　出版者：講談社（2016 年 4 月）

太宰治は好き嫌いが分かれる作家だと思います。まだ太宰作品を読んだことのない方にこちらの作品をおすすめします。朝吹真理子、西加奈子、村田沙耶香等 7 人の作家が自分のお気に入りの小説を短い解説とともに紹介しています。作家が選ぶだけあって、個性的かつ一風変わった作品が揃っています。読んだ中では津村記久子選「駆込み訴え」が印象に残りました。同シリーズで「男性作家が選ぶ太宰治」「女性作家が選ぶ太宰治」もありますので、手に取っていただけたら嬉しいです。

館長随想（十三）



四月六日の北海道新聞に「出版不況　図書館のせい？　新刊本無料貸し出しに業界不満」という記事が載りました。最近出版関係者でこのような発言をする人がいて、道新以外の新聞や雑誌でも同様な記事がありました。

私は昨年末、この記事に登場している新潮社佐藤社長の講演を聞きましたが、ほぼ同じ内容でした。刷り部数の多いベストセラーは買わないでほしい、文庫を入れないでほしいというものです。講演では、刷り部数の少ない小説は図書館で買ってほしいとも言われました。私は指名されたので「図書館では出版後すぐ買うが、ベストセラーになるかどうかわからないし、刷り部数は公表されていないので、知る術がない。文庫化された時内容が変わるものがあり、優れた解説もつくので、図書館でも資料としての価値があるが、その点どう考えるのか。」、と質問しましたが、その通りですねと言って、質問にはなにも答えられませんでした。

図書館にとって、本は一番といっていいくらい大事なもので、出版物がなくなったら存在価値が問われます。その意味で、図書館は出版社と一緒に出版文化を守っていかなければなりません。実際には、ほとんどの小説等は大手でも、初版三千部から六千部で、そのうち千部から多いものでは三千部は図書館が買っています。小説の出版は図書館が支えていると言っても過言ではないと思います。図書館が幅広く買い続けることで、作家が育ち、良い作品が生まれます。そのために、ベストセラーだからといって何冊も買えないのが図書館です。もし沢山買っても、数年で人気は収まりほとんどは閉架にしまい込むことになります。人気の本の予約を待つのはあまりに待たなければならないという声もありますが、出版社、図書館そして利用者の皆さんにも、この状況をご理解いただき、共に考えていってほしいとお願いします。

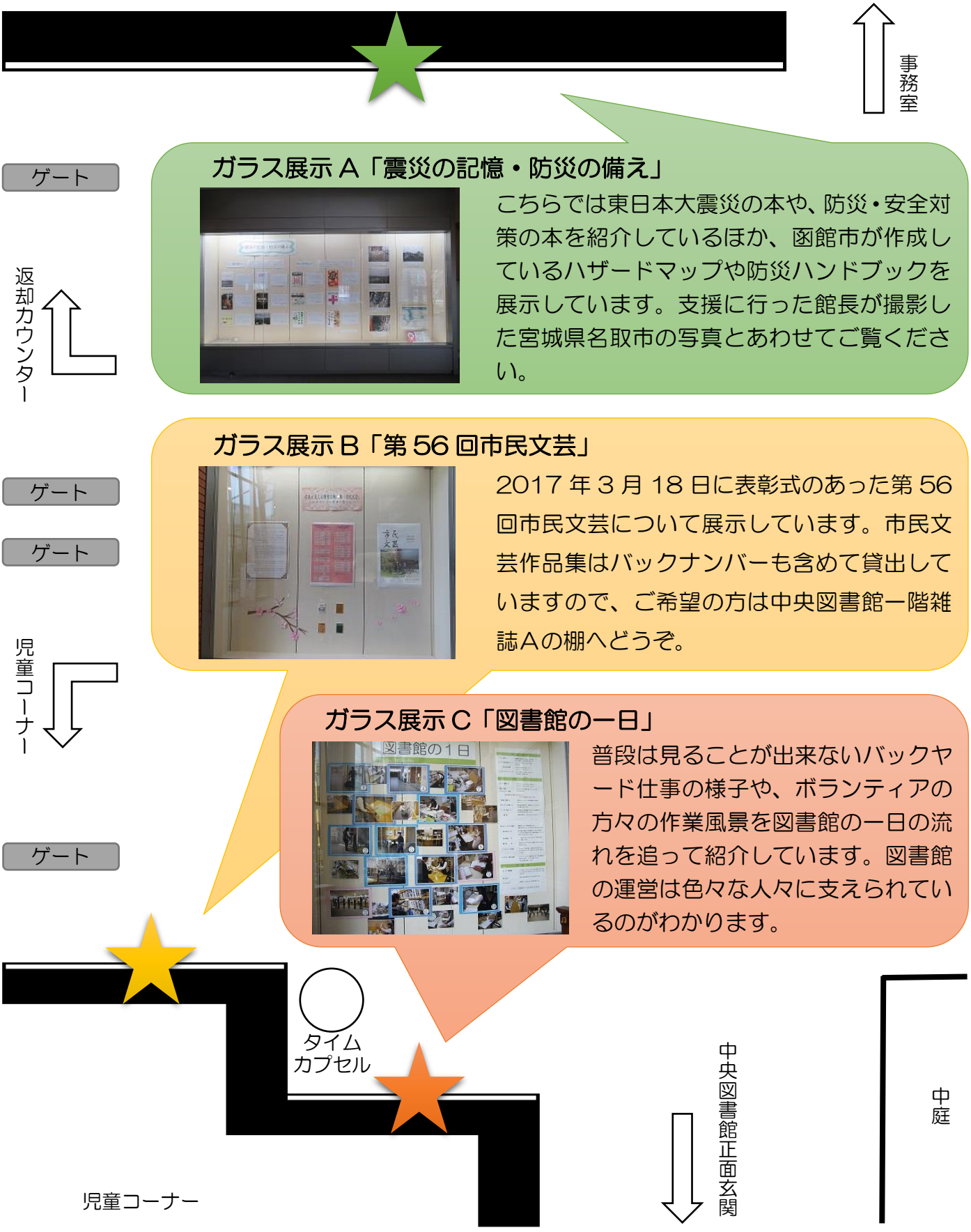
デジタル資料館 紹介

函館公園全図（1810662674）

明治 15 年（1882 年）に発行された、函館公園を描いた錦絵３枚続きの木版画です。
桜や梅の木々の間には博物場や茶屋の姿も見え、当時の園内の様子がよくわかる絵図になります。

ガラス展示のご案内

図書館には様々な展示がありますが、今回は回廊にあるガラス展示をご紹介いたします。



ガラス展示Ａ「震災の記憶・防災の備え」

こちらでは東日本大震災の本や、防災・安全対策の本を紹介しているほか、函館市が作成しているハザードマップや防災ハンドブックを展示しています。支援に行った館長が撮影した宮城県名取市の写真とあわせてご覧ください。

ガラス展示Ｂ「第 56 回市民文芸」

2017 年 3 月 18 日に表彰式のあった第 56 回市民文芸について展示しています。市民文芸作品集はバックナンバーも含めて貸出していますので、ご希望の方は中央図書館一階雑誌Ａの棚へどうぞ。

ガラス展示Ｃ「図書館の一日」

普段は見ることが出来ないバックヤード仕事の様子や、ボランティアの方々の作業風景を図書館の一日の流れを追って紹介しています。図書館の運営は色々な人々に支えられているのがわかります。